

ボジョレー速報 2017年

いよいよヌーヴォーの仕込みが始まった！

収穫を無事に終え、現在仕込み真っ最中のカリーム、ジャン、フレッド&ケヴィンを突撃訪問♪

※ デキュバージュ=マセラシオンもしくは醗酵が終了したワインを他の容器へ移し変える作業

☆ カリーム・ヴィオネ

2017年のヌーヴォーの収穫は9月3日にスタートした。(※)デキュバージュは9月9日に終わり、現在はマロラクティック発酵が終わるのを待っている状態だ。8月の天候が乾燥していたためブドウの粒は小さく、8月27日時点のブドウを糖度計で測定したところ、潜在アルコール度数が13%を超えており一瞬戸惑ったが、8月31日から2日間で80mmの雨が降り、13%あったアルコール度数も12%以下まで下がった。収量は、残念ながらランシエの畑が雹に当たってしまったので30hL/ha。前年の40%減だ。今年は醸造に時間の余裕があったため、ブドウを20℃に温度コントロールして仕込んでいる。まだマロが終わっていないが、出来上がるワインは、果実味がとてもチャーミングで、ボジョレー・ヌーヴォーの醍醐味が詰まった味わいになるだろう！



ヌーヴォー用のガメイ



発酵の経過を記録するカリーム

☆ ジャン・フォワヤール

2017年のヌーヴォーの収穫は9月8日にスタートした。当初は9月5日頃を予想していたが、収穫直前に50mmを超える雨が降り、乾いたブドウが水分を十分吸い上げるまで待つてから収穫を開始した。8月は水不足だったので、ブドウの実が小さく最後まで収量が心配だったが、収穫直前の雨はまさに恵みの雨だった！今年は醸造に時間の余裕があったので、他のキュヴェと同じようにブドウをいったん6度まで冷やしてから醸造を開始した。まだ完全に発酵が終わっていないので、はっきりとした値は言えないがアルコール度数は12.5~13%、収量は40hL/ha前後になるだろう。なお、(※)デキュバージュは来週を予定している。出来上がるヌーヴォーは、例年のごとく艶やかだが、いつもよりもストラクチャーのしっかりとしたワインになることを予想している！



ジャンの収穫を手伝うヴァンダンジャー達



収穫されたブドウ

☆ フレデリック・コサール&ケヴィン・デコンブ

2017年のヌーヴォーの収穫は9月10日にスタートし、今年はマルシャン村のブドウのみで仕込むことに決めた。8月は下旬まで雨が降らず乾燥していたが、8月31日から2日間で100 mm近くの雨が降り、これがまさに恵みの雨となった！水不足で小さくなっていたブドウも喉の渇きを癒すように水を一気に吸い上げ果汁を溜め込んだ。また、雹で傷んだ乾いたブドウもこの雨で一気に洗い流され、最終的には見た目が完ぺきなブドウを取り込むことができた！収量については、まだ正確なことは言えないが、25 hL/ha前後と去年の半分ほどになることは間違いないだろう。アルコール度数は12%~12.5%に収まりそうだ。今年は、何と云っても去年成し遂げられなかったマルシャン村のブドウでヌーヴォーができることが最大の目玉だ！出来上がるワインは、色が明るく酸の乗った果実味が非常にリッチな味わいになると予想している！



発酵中のヌーヴォーのジュース



タンクで全房発酵中のガメイ

今年は3生産者ともに収穫直前に降った最後の雨に助けられたようだ！今のところ発酵も問題なく順調に行っている！さあ、後は彼らの渾身の力を込めてつくり上げたヌーヴォーの仕上がりを待つだけだ！

2017年9月15日、16日訪問レポート

ボジョレー速報 2017年

3生産者とも春の霜の被害はギリギリ免れ、幸先の良いスタートを切った。6月の時点でブドウは約3週間早いペースで成長し、開花も順調に終え、今年は2015年のような当たり年が期待された中、7月に突如襲った2度の雹害…。雹に関しては、ここ数年毎年のことになっており、「雹が降らない年の方が奇跡」と考えを改めた方が良さそうだ。この先も雹や日照り、一転大雨など収穫まで気が抜けない日が続く。カリーム、ジャン、フレッド&ケヴィンの直近の現状はいかに？

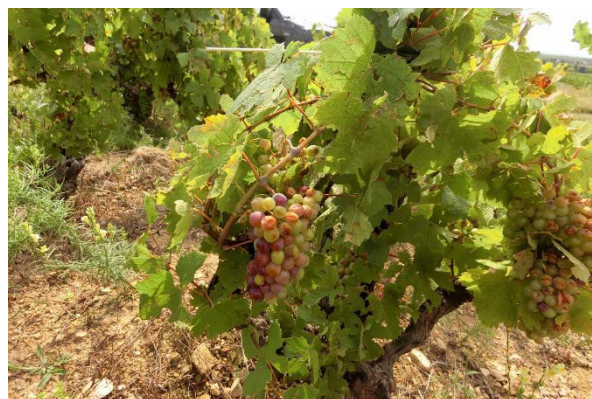
☆ カリーム・ヴィオネ

7月10日と31日、2回も雹に当たってしまったランティエの畑…。だがフルーリーやピィのように直撃ではなく、幸い少し外れていたため、被害は20%前後だろう。1回目の雹では、周りの畑がかなりのダメージを受けた中、カリームの畑は奇跡的にほぼ助かった！雹の雲が竜巻のように渦を巻いて彼の畑だけうまくその渦により外れたのか、それとも畑のまわりの木々や茂みが防いでくれたのか、いずれにせよ両側が70%以上被害に遭う中、真ん中のカリームの畑だけ被害が最小限だった。これはミラクルとしか言いようがない！

今年の収穫は9月7日前後を見込んでいる。7月29日にヴェレゾンが始まったが、その直後の31日に、雹が降ったため、その影響でブドウが委縮しないかどうか、少し心配だ。



畑を見廻るカリーム



雹の被害に遭ったブドウ

☆ ジャン・フォワヤール

7月10日と31日の雹の被害により、フルーリーは全滅…コースレットとピィは50%がやられるような散々な状態の中、ヌーボーの畑はほとんど被害がなかった。7月31日は、夕方から突然空に真っ黒な雲が現れ、強風と共に親指大の雹とスコールのような集中豪雨が15分ほど続いた。道路は川のように水が流れ、雹が渦を巻く姿を見て、「今年はブドウが全滅か…」と一瞬ジャンも心が折れそうになったほど、凄まじい光景だったそうだ。しかし、雹を降らせた積乱雲が通ったルート外は、すぐ隣同士でも雹害を免れた畑もあった。ただ、その畑も6月以降の水不足が心配なところだ。

ヴェレゾンは7月26日前後から始まり、収穫は9月5日前後を予定。ブドウの果汁を得るためにひと雨降ってほしいと願っていたところ、8月7日から天気が崩れはじめた。ここでしっかりと雨を確保したいところだ。



ヌーヴォー用の畑（相変わらずの雨不足）



ヴェレゾン は 7/26 から開始

☆ フレデリック・コサル&ケヴィン・デコンブ

7月31日の日曜日の夕方に2回目の雹が降り、幸いこの雹の被害は免れることができた。その前の7月10日に降った雹は、保険会社の査定によるとレーニエに隣接するブドウが85%の被害に遭っている…。幸いマルシャン村の畑は雹が激しく降った一帯から少し外れていたため、10%程度の被害で済んでいる。ただ、被害は小さかったものの雹が当たったインパクトによりブドウの成長に一時ブレーキがかかってしまい、3週間早まっていた成長サイクルが例年並みのペースに戻りつつある。現在、マルシャン村のブドウに一部ヴェレゾンが確認できたような状態で、収穫は今のところ9月15日前後で考えている。

今年は、レーニエに隣接するブドウがほとんどないので、マルシャン村のブドウをメインにヌーボーを仕上げる予定だ！ちなみに、去年マルシャン村のブドウはヌーボーに間に合わなかったが、そのブドウで仕込んだワインは現在樽熟 AC ポジョレー・ヴィラージュとしてリリースしている。「ピノノワールのようなエレガントなワイン」として、AC モルゴンよりも高い価格に関わらずと高評価を得ている！その言わば特別なブドウをほぼ100%惜しみなく使う今年のヌーボーは、生産者にとっては痛手だが、消費者にとっては最高のプレゼントになるだろう！



雹の被害を免れたマルシャン村の畑



ブドウは健全で、生育ペースは例年並みに戻りつつある

3 生産者共に雹の被害に遭ってしまったが、ヌーボーはどうかブドウの品質を維持したまま希望を繋いでいる！今後のキーポイントはやはり収穫までの降雨量！現状だと降って欲しいが、もちろん降りすぎては困る。次回は収穫と醸造をレポートします！どうぞご期待ください♪

2017年8月1日訪問レポート

ボジョレー速報 2017年

今年もボジョレーヌーヴォーの季節がやってくる！

2016年は、霜、雹、そして長雨によるミルデュー被害の三重苦により、大幅な収量減に悩まされたが、後半から収穫にかけて天気に恵まれたおかげでブドウも熟し、最終的にヌーヴォーらしいチャーミングなワインに仕上がった年だった。

さて、2017年は、4月終わりから5月初めにかけて、ロワール、ジュラ、ボルドー、南仏、ブルゴーニュ等広域で遅霜の被害を受けるといふ、前代未聞の幕開けとなった。ボジョレーでも南の方が遅霜にあったが、どうやら3生産者とも幸いにしてギリギリ免れ、良いスタートを切っているようだ！そして、現在は連日の猛暑によりブドウの成長サイクルは例年より1ヶ月ほど早いペースで成長している。リリース期限が決まっているヌーヴォーにとって、仕込みに時間を掛けられることは、品質向上のメリットがある！

暑くなれば雹のリスクが高まるなど、まだまだ気の抜けない段階ではあるが、この先も安定した天候が続くことを願っている！

☆ カリーム・ヴィオネ

2016年の終わりに、プリムール用に標高350m付近にあるランティニエのコミュンに40aの畑を手に入れた。樹齢は48年のヴィエーユ・ヴィーニュで、さらに周りの一部が木々に囲まれていて、他の生産者の畑が隣接していないことがアドバンテージだ！前所有者が高齢により畑管理が十分にできなかったことから、畑譲渡の話が回ってきたそうだが、最初は雑木が生い茂るジャングルのような畑だった！年初にその雑木を鋤とチェーンソーを使って伐根し、写真のような状態まできれいにした！今のところ雑木という競争相手のいなくなったブドウの木は、何も問題なくすくすくと育っている。開花は例年よりも2~3週間早く、ランシエなど早いところで6月6日にはすでに始まっている。ランティニエも6月9日頃に開花が始まった。今年の収穫は、このまま何もなく良い天候が続けば8月の終わり、9月頭には開始しているだろう。



新たに取得したランティニエの畑



開花は何の問題もなく終了

☆ ジャン・フォワヤール

今年の開花は6月6日頃から始まった。例年よりも2週間ほど早い開花だが、最近のように日中の気温が連日35℃を超えるような快晴が続けば、2015年のように8月の収穫もあり得るだろう。今年は春の初め気温が暖かかったことで、ブドウの芽吹きが早かったが、4月終わりから2週間ほど寒さが続き、いったんブドウの成長にブレーキがかかった。この時最大マイナス2度まで気温が下がることがあったが、幸いにも遅霜の被害はなかった。その後5月19

日にコート・ド・ピイ周辺に雹が降ったが、これも幸いまだ開花前で枝も小さく被害はほとんどなかった。今のところ病気は一切なく、2016年の不作の反動なのか、ブドウの房もたくさんあり、このまま何も問題がなければ大豊作が期待される！ただ、一方では、夏でもないのにすでに30度を超えるような天気が続くことは、今後雹や日照りを招くリスクがありちょっと心配だ…。



ジャンのヌーヴォーの畑



ブドウは健全で収量も期待できる

☆ フレデリック・コサール&ケヴィン・デコンブ

連日猛暑が続き、日照りが心配ではあるが、それ以外は全く問題がなく、ブドウはまるで2015年を彷彿させるような素晴らしい状態を保っている！開花は、標高が最も高いマルシャン村の畑でも6月10日に始まり、その他の畑も順調に続いている。2016年は、収穫が間に合わずマルシャン村のブドウはヌーヴォーに回すことができなかったが、今年はこのペースで行けば、昨年よりも3週間早い9月8日前後には収穫できるので、問題なく仕込めるだろう。

今のところ、今年のヌーヴォーに使用したクリュ・ボジョレー・レーニエに隣接するブドウもマルシャン村のブドウもどちらも霜の被害に遭わず、開花も順調で豊作が期待できそうだ。品質的には酸のエレガントなマルシャン村のブドウと、骨格豊かなレーニエに隣接するブドウをアッサンブラージュし、例年以上にハイレベルな・ヌーヴォーを造るつもりだ！



レーニエに隣接するヌーヴォー用の畑



ブドウの様子を確認するケヴィン

3生産者共に遅雹の被害に当たらなかったことはとても良いニュースだ！このまま順調に行けば、質・量ともに2015年のような当たり年となる可能性が期待できる！次回のレポートも乞うご期待ください♪

2017年6月12日訪問レポート